

* 原始的な暮らしなの？ *

縄文遺跡で出土する色々な道具を観察すると、縄文人たちの暮らしがわかる様々なヒントが見つかります。



アンギン痕のついた焼成粘土
京原遺跡(笛吹市)

例えば土器を作るために運ばれた粘土には、編みもの(ア
ンギン編み)の痕がついていて、編布の袋に入れて運んでいた
ことがわかりました。また、土器を作るときに編布を底部に
敷いて作っていたことなども土器の底の痕からわかるのです。
つまり、縄文人たちは編み物をする技術をもっていたのです。
ということは、当然編布で作った服を着ていたことでしょう。
土偶の模様を見てもわかります。

縄文コラム

絵の具(顔料)入れとみられる小さな容器も見つかっています。漆に赤色
顔料を混ぜて土器に模様を描いたり、土偶を塗ったりしています。縄文人たちは
色彩感覚だってあるのです。

また、ヒスイの首かざりや、
模様のきれいな耳かざりなども
身につけていて、なかなか縄
文人もおしゃれですね。



顔料を入れていたとみられる土器
北原C遺跡(南アルプス市)



耳かざり
三宮地遺跡(韮崎市)



赤く模様が描かれた土器
酒香場遺跡(北杜市)

* 祈りの世界 * いのりの人形 ~ 土偶 ~

縄文人たちの祈りの象徴—「土偶」。粘土で作られ焼きあげられた人形のことで、多くは女性
をかたどっていて母性や豊穡を表したシンボル「女神さま」とみられています。釈迦堂遺跡
からは国内有数の出土量を誇る土偶 1,116 個体が出土しています。そのほとんどは体の
一部分だけで、中には土の中に丁寧に納めていたものもありました。ただし、
後田遺跡の土偶のように、大部分が復元でき、妊婦の様子がよく
わかる大型の土偶もあります。



土偶群 釈迦堂遺跡(笛吹市 甲州市)

全国の例では、赤ちゃんを
抱っこしたお母さんの姿の
土偶などもあり、子孫繁栄や
家族への思いがこめられて
いたことでしょう。



後田遺跡
(韮崎市)

右手は腰に、
左手はお腹の子を
大事にしている
ようですね

鋳物師屋遺跡
(南アルプス市)

